

理解度確認テスト・整形外科Ⅱ

氏名 _____

問1. 犬の膝蓋骨脱臼に関する説明として正しいのはどれか。

- ① 全症例のうち70～80%が膝蓋骨外方脱臼である。
- ② 脱臼の程度によって通常、I～IVにグレード分類される。
- ③ グレードIは膝蓋骨の脱臼が不可逆的で、手で戻すことができない。
- ④ ドロワーサイン(脛骨前法引き出し徴候)は、この疾患の重要な診断法の一つである。
- ⑤ 外科的治療法はないので、鎮痛薬投与によって症状を軽減させる。

問2. 骨折に対するギプス着用によりおこる骨格筋の萎縮はどれに分類されるか。

- ① 加齢性萎縮
- ② 栄養障害性萎縮
- ③ 神経性萎縮
- ④ 内分泌性萎縮
- ⑤ 廃用性萎縮

問3. 前十字靭帯断裂の確定診断に重要な指標・診断法はどれか(正答を2つ選択)

- ① オルトラニサイン
- ② ドロアーサイン
- ③ 脛骨圧迫試験
- ④ 立ち直り反応
- ⑤ 踏み直り反応

問4. 大腿骨の骨頭に起こる虚血性変性を特徴とする疾患はどれか。

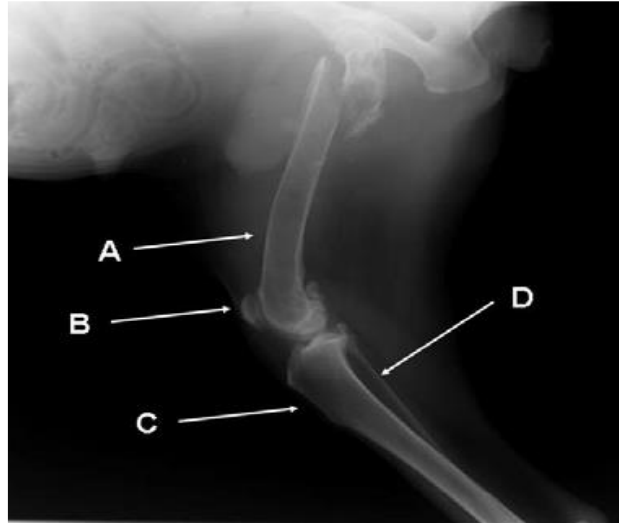
- ① 股関節脱臼
- ② 股関節形成不全
- ③ 椎間板ヘルニア
- ④ レッグ・ペルテス病
- ⑤ 肥大型骨異栄養症

問5. 整形外科疾患について、正しい記述を1つ選びなさい。

- ① 膝蓋骨脱臼は寛骨臼から大腿骨頭がはずれることである。
- ② レッグペルテス病は大腿骨頭頸部の骨折である。
- ③ 前十字靭帯断裂は上腕骨と尺骨を繋ぐ靭帯の断裂である。
- ④ 股関節形成不全は遺伝性疾患ではない。
- ⑤ 脱臼は関節における正常位置からの骨の逸脱である。

問6. 骨折で来院したイヌの後肢のX線写真について正しい記述を1つ選びなさい。

- ① 飛節部を中心に撮影している。
- ② A は大腿骨である。
- ③ B は膝蓋骨であり、腓骨と大腿骨の間に存在する。
- ④ C は腓骨である。
- ⑤ D は脛骨である。



理解度確認テスト・整形外科Ⅱ 正答

問1. 犬の膝蓋骨脱臼に関する説明として正しいのはどれか。

- ① 全症例のうち70～80%が膝蓋骨外方脱臼である。
- ② 脱臼の程度によって通常、I～IVにグレード分類される。
- ③ グレードIは膝蓋骨の脱臼が不可逆的で、用手で戻すことができない。
- ④ ドロワーサイン(脛骨前法引き出し徴候)は、この疾患の重要な診断法の一つである。
- ⑤ 外科的治療法はないので、鎮痛薬投与によって症状を軽減させる。

問2. 骨折に対するギプス着用によりおこる骨格筋の萎縮はどれに分類されるか。

- ① 加齢性萎縮
- ② 栄養障害性萎縮
- ③ 神経性萎縮
- ④ 内分泌性萎縮
- ⑤ 廃用性萎縮

問3. 前十字靭帯断裂の確定診断に重要な指標・診断法はどれか(正答を2つ選択)

- ① オルトラニサイン
- ② ドロアーサイン
- ③ 脛骨圧迫試験
- ④ 立ち直り反応
- ⑤ 踏み直り反応

問4. 大腿骨の骨頭に起こる虚血性変性を特徴とする疾患はどれか。

- ① 股関節脱臼
- ② 股関節形成不全
- ③ 椎間板ヘルニア
- ④ レッグ・ペルテス病
- ⑤ 肥大性骨異栄養症

問5. 整形外科疾患について、正しい記述を1つ選びなさい。

- ① 膝蓋骨脱臼は寛骨臼から大腿骨頭がはずれることである。
- ② レッグペルテス病は大腿骨頭頸部の骨折である。
- ③ 前十字靭帯断裂は上腕骨と尺骨を繋ぐ靭帯の断裂である。
- ④ 股関節形成不全は遺伝性疾患ではない。
- ⑤ 脱臼は関節における正常位置からの骨の逸脱である。

問6. 骨折で来院したイヌの後肢のX線写真について正しい記述を1つ選びなさい。

- ① 飛節部を中心に撮影している。
- ② Aは大腿骨である。
- ③ Bは膝蓋骨であり、腓骨と大腿骨の間に存在する。
- ④ Cは腓骨である。
- ⑤ Dは脛骨である。

